

令和 7 年度第 2 回中井町総合計画審議会議事録

日 時	2025 年 10 月 2 日（木） 10：00～11：30
出席者	資料参照、欠席： 2 名
議 題	1. 会長挨拶 2. 協議事項 (1)第七次中井町総合計画前期基本計画案について 3. その他 今後のスケジュールについて
議 事 事務局	おはようございます。ただいまより第 5 回中井町総合計画審議会を開催させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。本日は、今月パブリックコメントを控えております、最終の計画案について色々のご審議をいただきたいと考えております。また活発な意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日、1 名ご欠席ということでご連絡をいただいております。もう一人お見えになっておりませんが、送れてお見えになっていただけたと思いますので、こちらで過半数に出席いただけており、会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。いつもの通り、今回も原則公開となっております。議事内容等ホームページで公開させていただきますので、ご了承をよろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして会長よりご挨拶をお願いいたします。会長よろしくお願いいたします。
会長	1. 会長挨拶 みなさん、おはようございます。今日もよろしくお願いいたします。1 時間半という限られた時間の中ですけれども、しっかり中身の濃い議論をしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。先ほど配られました別紙をご覧ください、左上に田村さんの写真の上に 2025 年度内に計画決定予定となっておりますので、予定はみなさん次第ですので、しっかりと議論してやっていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。私からは以上になります。
事務局	ありがとうございました。それでは会議に入る前に資料の確認をさせていただきたいと思ひます。本日の会議次第、おめくりいただきまして委員名簿、資料 1 が横版の中井町町民アンケートの実施結果及び目標値の考え方について、資料 2 が同じく横版の第七次中井町総合計画基本構想及び基本構想案となります。参考資料といたしましては、総合計画の概要版になります。また、さきほどのディスカバージャパンという雑誌のほうに当町の取り組み、NEC さんと幸せの分析などを行って総合計画を策定しているということが記事として取り上げていただいておりますので、参考にお配りさせていただいております。資料のほう過不足等はございませんでしょうか。無いようであればこのまま続けさせていただきます。それではこれより協議事項に入りますが、これより先の進行につきましては規定に基づき牧瀬会長にお願いしたいと思ひますので、会長よりよろしくお願いいたします。
会長	はい、ではこれから私の方で進めていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。2 の協議事項に入る前に、最後にも説明しますけれども、今後のスケジュールについて改めて最初の方に説明してもらえればなと思ひます。事務局からお願いいたします。
事務局	では、お手元にお配りいたしました資料 1 の裏面の最終ページの方を見ていただければと思ひま

事務局	す。本日は中央右側にございます第5回審議会となっておりますけれども、10月2日、こちらが本日の会議というかたちでございます。いま会長からお話ありました通り、この後10月10日から29日にかけてパブリックコメントのほう実施をさせていただきます。そのパブリックコメント実施後、その結果のとりまとめをしたものを11月上旬から中旬のどこかで、またはは設定させていただきますが、第6回の審議会を設定させていただきますして、本計画につきましては議会へ上程するというものになりますので、その上程前に最終的に皆様にご議論、ご決議をいただきたいと考えてございます。今後のスケジュールを踏まえまして、本日ににつきましては、こちらのパブリックコメントの実施前に皆様のご意見を計画に反映させるためのものとご理解いただければと思います。 2. 協議事項 では、説明のほう戻らせていただきまして、資料1の方ご覧いただければと思います。まず、こちら総合計画の策定に向けた町民アンケートの実施結果及び目標値の考え方ということで、1ページおめくりいただければと思います。これまで町民のアンケートにつきましては、テストアンケート含め、実際のアンケートというものを昨年実施させていただきました。また、本年8月1日から8月22日の間にアンケート調査を実施させていただきました。今年度実施させていただきましたアンケート調査につきましては、計画内に位置付けます幸せ指標の足元の数値を確認するためのアンケートということで、直近の町民の皆様の、どのような幸せを感じられているか、その度合いを測るために実施させていただいたという形になります。実施方法につきましては、WEB形式での実施という形でさせていただきました。これにつきましては、また後に説明させていただきますが、来年度から毎年同様のアンケートを行っていきます。そのアンケートに基づきまして、毎年毎年、町の行った事業・施策に対して町民の皆様の満足度、幸せの指標を測らせていただいて、町で行った事業がどのように町民の皆様の幸福につながっているかを毎年確認するためにアンケート実施させていただきます。当然、毎年アンケート実施いたしますので、これからのアンケートにつきましてはWEB形式でのアンケート実施ということで考えてございます。その辺りも踏まえまして、今年度のアンケートのアンケートにつきましてもWEBでの実施とさせていただきます。回答数は137件と2ページに記載させていただいておりますが、件数的には少ないといったようなかたちになりますけれども、統計上の問題としてはこの数字が取れていれば問題は無いということで作業の方は進めさせていただきました。実際のアンケート内容につきましては3ページにございます。こちらにつきましては昨年度実施させていただきましたアンケートと変わらないようなアンケートの内容となっております。4ページ目、5ページ目につきましては回答者の状況、137名回答いただいた方の状況といったかたちでございます。こちらまたご覧になっていただければと思いますので割愛させていただければと思います。もう1ページおめくりいただきまして、6ページご覧いただければと思います。では実際に今回のアンケートどのような結果になったかということで、まず、町民の皆様の幸福実感といった形でございます。真ん中が今現在の足元の数値、左側が5年前、右側が5年後で、この辺も昨年度実施したアンケートと内容は変わってございません。また、このアンケート結果につきましては、昨年実施させていただいたアンケートと傾向は一緒、同じような形で結果が出ているといった形でございます。また、この山の形につきましても全国平均と似たような傾向といったところも変わらないという状況です。その下、7ページ目ご覧いただければと思います。こちら幸福実感の男女別を左・右で表示しております。こちら昨年アンケート結果と大きく変わらず、やはり中井の方の幸福感につきましては、今現在については全国平均よりも高いといったことは変わら
-----	---

ない状況でした。ただし、5年後についてはやはり下がっていくといった傾向は変わらず、昨年と同様の結果となったというところを示させていただいております。1ページおめくりいただきまして、8ページ目は参考ということで今ご説明させていただきました町民の方の幸福実感はどのくらいかといったことを男女平均ですけれども全国の者と比較したものを載せさせていただいております。現在、中井の町民の方の幸福実感については、0から10の11段階で6.61といった形になってございます。これはここにも記載がありますけれども全国平均が6.0ということになっていますので、基本的には全国の方よりも幸福実感が高いという結果になったかと思えます。5年後、やはり中井町については下降傾向があるとお話しさせていただきましたが、5年後につきましては6.45ということで、下がる傾向にございます。ただし、全国平均では現状の6.0から6.3ということで、0.3ポイント上昇するといった形になってございます。この辺りから全国と比較して中井町の傾向が見てとれるといった資料とさせていただいております。その次のページから、9、10ページについては、どのようなものが中井町民の方の幸福につながっているのか、幸福につながっていないのかといったことを、主だったものを赤枠で示させていただいておりますけれども、こちらについても昨年度実施したアンケートと同様ということになりますので、詳細は説明を割愛させていただければと思います。9、10ページはその辺の調査の結果といった形になります。自然であったり、人とのつながりといったものに幸福を感じているといった傾向は変わっていないという状況でございます。最後11ページに、アンケートの調査結果のまとめということで簡単にまとめさせていただいております。下に①②③と書かせていただいておりますけれども、重複になりますが、中井の町民の現在の幸福実感が高いといった結果、また、高齢者になるほど将来の幸福実感はある傾向という形です。また、中井の町民の方については家族や友人との関係がよく、町の自然に誇りを持っているという傾向が見てとれます。これは昨年の調査とも変わらないといった形でございます。では、実際にこのアンケート結果をどのように施策に反映させていくのかといったところで1ページおめくりいただければと思います。実際に先ほどもご説明させていただきましたが、次年度以降町民の皆様の幸福度を聞くといった中で、計画書あとで簡単にご説明いたしますが、各計画のKPIとして幸福実感の数値を目標値として掲げます。実際、中井町の幸福実感については6.61という結果になりました。この結果を少なくとも5年後、どのような目標値にするのかといったものの考え方を12ページの方に示させていただいております。先ほど、中井町の幸福実感と全国の比較の表を見ていただいたと思いますが、実際中井町の平均値が6.61、全国は6.0というかたちになっております。ただ、全国については、5年後は6.3で0.3ポイント上がるといった状況です。中井町は今回のアンケートにつきましてはこの表ちょっと見辛いかと思いますが、左から1から137、今回回答された方、全員の方の幸福実感を一列に並べたグラフになります。緑色の真ん中にある線が全体を足して人数で割った平均値というものが6.61になります。今回、中央値というところで中井町の方の真ん中に位置する方は7で幸福実感を考えられているといった形になります。今回、中井町の今後の幸福実感の目標数値については5年後6.61を7まで引き上げたいという目標設定にしたといった形で考えております。これにつきましては、先ほどご説明いたしました全国平均の6.0から6.3と0.3ポイント上がる結果となっております。ただし、中井町については6.61から下がるといった結果になっていますので、全国と同じような形で0.3くらいは上げていきたいと。また、上げた数値も達成し得ない数値ではなく、今回のアンケート結果の中央値の7という数値、これは概ね6.61から0.3上げた数値とほぼ同じになりますので、そういった視点も踏まえまして、今回の中井町の5年後目指す幸福実感6.61から7を目指したいといったところで考え設定させていただいたものが12ページのものになります。その後13ページから19ページまで

は、各施策の方向性をもとに各ウェルビーイング指標または政策指標といった目標値を掲げさせていただきます。これから順に説明いたしますが、まず 13 ページ目になります。計画につきましては、町民の皆様のアンケート結果を分析した結果、5 つの方向性が導き出されたといったことは事前にお伝えしているところでございます。そこにあわせて行政改革大綱となる方向性 6 を加えまして、6 つの方向性を軸にして総合計画を策定するといった形でご説明してございますが、その方向性にも KPI を設定してございます。この表、右が現状値というものは各方向性の幸せの数値という形になります。ちょっとわかりづらいですが、幸福実感は先ほど 0 から 10 の 11 段階というお話しさせていただきましたが、これからご説明する方向性の方に入っている数値については 1 から 5 の 5 段階の数値でアンケートの方聞いてございます。ですので、方向性 1 の「暮らしやすい生活環境であると感じている」といったものは現状 3.20、その下「経済的なゆとりがある」は 3.52、こちらは 5 段階といった形になりますので、上の 6.61 と比べると数値が低く感じますが、階層が違う、11 段階から 5 段階になるという違いがございますので、そこはご了承いただければと思います。今回、右側に目標値を設定させていただいております。この目標値の設定の仕方につきましては、今回 5 つの方向性を導き出すためにも、町民の皆様のアンケート結果の分析をかけてございます。前にもご説明いたしました因果分析等をかけて方向性を導き出しております。今回につきましても、目標値 7 を達成するためには、どういった指標をどのくらい達成すれば町民の皆様の幸福度が 7 まで上がるかといったことを分析した結果がこちらの数値となっております。方向性 1 については 3.20 を 3.37、方向性 2 につきましては 3.52 を 3.71、以下ですが、このような数値を達成すると町民の皆様の幸福度を 7 まで引き上げられるといったものを逆算して決めている数値になります。次のページ、14 ページ目からは方向性毎に指標を位置付けておりまして、それぞれ各現状値と目標値を記載しております。こちら当然足元の数値が 3 点台のものもあれば 2 点台のもの、1 点台のものもあるといった形になりますけれども、最終的な幸福実感 7 を達成するためにはと分析した数値が右側の目標値といったことで記載させていただいております。その辺りはご確認いただければと思います。ですので、各方向性の目標値ひとつひとつに対してこの指標はどのくらい上げようというような検討を個々にしたというよりは、全体の幸福実感 7 を達成するために分析をかけた結果、各指標これだけ上がれば 7 を達成します、といったことでの設定方法といった形で今回の計画の目標設定をさせていただいたといった形でございます。これまで資料 1 のアンケート、目標値の考え方についてご説明をさせていただきました。では、続きまして資料 2 をご覧いただければと思います。今まで皆様には Word ベースで作った計画案をご覧いただいております。今回のこの資料は実際の本印刷に近いといったものでデザイン性も踏まえて作成させていただいたものです。これまで、構成自体は皆様にお見せしているものと変わらないのですが、体裁等整えさせていただいて、まとめさせていただいているといった形でございます。1 ページおめくりいただきますと目次とありますけれども、こちら以前お示した通り、1 ページ目序論から始まりまして、ローマ数字Ⅱで基本構想、2 ページ目に移りまして、ローマ数字Ⅲで前期基本計画、あとは参考資料、大きく 4 つの章で構成をしているものとなっております。基本構想につきましては既に皆様に一度ご審議いただいて、ご決議いただいている内容にはなりますけれども、5 ページから基本構想ということで、5 ページで策定の主旨、町民のウェルビーイングの実現のためにということ、1 ページおめくりいただきまして 7 ページは時代の潮流の変化といったことでまとめさせていただいております。これが 9 ページまであります。10 ページでは、町民のウェルビーイングの特徴といったことで、文章の中身は既に皆様に見ていただいているものだと思いますけれども、そちらをこちらのほうの形に変えさせていただきました。また、11 ページ、

12 ページには、町民のウェルビーイングの特徴ということでグラフも新たに厳選したものを入れるといったことで、今までもお伝えさせていただいておりましたが、11 ページには町民の方の幸福実感の5年前、現在、5年後といったもの、また、12 ページの方では男女の平均の数値、特徴的なウェルビーイング指標に関する回答ということで先ほど赤枠で括ったようなものをこちらにまとめさせていただいております。その右下については因果分析の結果、中井町の町民の皆様のアンケート結果から幸福実感に繋がる強いものは何かと、前にもご説明させていただいた、そういったものをグラフとして入れさせていただいております。13 ページ、14 ページについては策定の考え方を記載してございます。15 ページ、16 ページは今回の第七次の総合計画の構成ということで、こちらも見開き2 ページで表現してございます。17 ページは、第三次中井町総合戦略と人口ビジョン、行政改革大綱との関係性ということで、こちら一度見ていただいておりますが、こういった形で本紙の方では表現させていただいてございます。ここまですべて序論になります。1 ページおめくりいただきまして、ここからが基本構想といったところで、皆様に議論いただいた将来像は20 ページの方に記載させていただいております。1 ページめくりまして、21 ページ、22 ページにつきましては、先ほどご説明いたしました町とまちづくりの6つの方向性につきまして、こういう方向性でまちづくりを進めますといったものを21 ページ、22 ページのほうで記載させていただいております。1 ページおめくりいただきまして、まちづくりを進めるための基本的な考え方といったところで、ここまですべて基本構想といった形でございます。また、1 ページおめくりいただきますと25 ページですね。ここからが前期計画といった形でございます。まず、将来像に対しまして26 ページでどのような施策の方向性をぶらさげるかといったものを計画の全体像が見えるような形で26 ページにまとめさせていただいております。27、28 ページ、1 ページおめくりいただきますと、こちらは前回の会議でもお示しさせていただきました、町の人口推計の考え方といったことをまとめさせていただいております。もう一ページおめくりいただきまして29 ページにつきましては、今回の総合計画につきましては町の総合戦略を包含して策定するといったことになってございます。昨年の6月に国の方で地方創生2.0といったものが閣議決定されております。こちらのものを町の計画にも反映させていただいているといった形でございます。国に基づくこちらの基本構想について、どのような国の5本柱が町の施策に関係しているかといったものをこちらの図で示させていただいております。30 ページにつきましては、こちら前回のお見せしておりますけれども、どのような形で基本計画の構成がされているかといったことで基本計画の読み方といったページでございます。1 ページおめくりいただきまして、31 ページから分野ごとに施策、また施策の中で現状と課題、施策実施方針、主な事業、その分野に関係します施策の目標、Well-Being 実感指標と政策指標を分野ごとに目標値が位置付けられているといったつくりになってございます。こちらの各分野、施策のなかの文書校正につきましては全庁的に職員が確認させていただきまして、また当然、町長、副町長、教育長含めた職員全員で文書の構成の方をさせていただいております。全部読んでいきますとなかなか時間がかかりますので、ここは後日見ていただければと思います。こちらは分野ごとに町が取り組んでいくこと、課題に関すること、それに対してどういう方針で取り組んでいくか、どんな事業を実施するかといったことを文章含めて記載させていただいております。これはずっと分野ごとに進みまして、72 ページまで各分野の説明ということで構成しております。73 ページについては、こちら分類の6事態を行政改革大綱としても位置付けるとご説明させていただきましたが、その行革大綱についての考え方を73 ページに書かせていただいております。また、行革大綱という形になりますので、74 ページに町の財政状況等の状況をグラフで載せさせていただいております。また、75 ページ、76 ページにつきましては、行政改革に向けた取組であっ

	たり、行政評価の実施をどのように行革大綱として行政を測っていくかといったことをこちらのほうで記載させていただいております。最後 77 ページでは、実際の総合計画をどのように進管理していくかといったことをグラフ、表を使って表現しているといった形になります。今回の総合計画につきましては並行して行政評価を行いながら事業の進捗管理を図っていくといった形で考えてございます。先ほどご説明しました通り、町民アンケートを毎年実施しまして、事務事業評価、施策評価を踏まえて翌年度事業へ反映していくと、このサイクルを毎年毎年実施しながら事業の進捗管理を図っていくとのことで構成しております。79 ページ以降は参考資料としまして、これまでの会議の策定の経過であるとか、条例の内容、また、審議会委員の皆様の名簿を書いてございます。また、83 ページからはアンケート調査の結果を簡略したものを載せさせていただいております。基本計画の本誌については、今このような形で取りまとめをさせていただいております。10 月 10 日から実施いたしますパブリックコメントのほうではこちらの計画の素案を町民の皆様には見ていただく形で考えてございます。 併せて、参考資料ということで付けさせていただきましたが、もう 1 枚横版のもの、概要版になります。これは全戸に配布させていただく形で作成したものです。今回 A4 判でお配りしておりますけれども、実際にはこの半ページが A4 になります。A4 の冊子型でお配りするといったかたちで考えております。ですので、今見ていただいているものについては表紙と裏面が 1 ページ目、右側が表紙で左側は裏面といった形です。1 ページおめくりいただきますと、ウェルビーイングとは何ぞやといったもの、6 つの方向性の考え方が 2 ページ目、3 ページ目。下のページに行きますと、町の現状と幸福実感の見通し、目指します人口の目標であったり幸福実感の水準というものを示しています。その次のページに行きますと、最終ページではまちづくりの方向性ということで 6 つの方向性を目指して町民の皆様の幸せを向上させていきたいといったもののページ構成になってございます。こちら本誌の概要版ということで、策定後は町民の皆様に全戸配布させていただくといった形で作らせていただいたものになりますので、こちら参考でご覧になっていただければと思います。大変駆け足でのご説明となりましたが、協議事項 1 の総合計画前期基本計画案につきましてのご説明は以上とさせていただきます。
会長	ありがとうございました。この件につきましては承認事項になりますので、これからご意見をいただいて、その後、承認をしたいと思えます。何かご質問やご意見があればいただきたいと思えます。どうでしょうか。
委員	こちらのアンケートが 137 件の回答ということなんですけれども、毎年行う上で前回のアンケートに対して今年どうだったかを見ていくと思うんですけれども、極端な話、全く違う何人か、この人たちが一切答えずにがらりと違う人が答えるといったことがもしもあったり、割合的に前回が答えなかったけれども初めて答える人ばかりだとなった場合にも、統計学的には参考にしていて良いデータになるんですか。例えば人口の中の 8 割が答えているからガラッと変わることはないよね、というほどの数ではないわけじゃないですか。
事務局	アンケート自体が署名式ではなく、無記名。どなたが回答しても良いというやり方になっていきますので、いま山崎委員が仰られたように回答者が全然変わってしまうという可能性もあると思えます。ただ変わらない可能性もあるので、あくまでそこはアンケートという作り自体、どうしてもそういった、誰が回答しましたという記名式にしない限りは同じ心配、可能性は含んでいるものとは認識してございます。ただ、統計学的に言っても特段そこについては大きく結果が偏る可

	能性が無いとは言いませんけれども、統計学的には問題ないということでは考えていますけれども。
委員	それが大前提だと思うので、そこが有り得るんだよとなっちゃうと、これをずっと実施していく意味自体、根底が崩れちゃうのかなと思って。そうしたらアンケートの取り方とかがこのままのやり方で続けては意味がないのではないかなと感じちゃうんですけど。
事務局	統計というものは、総数に対してどのくらいの割合で数値を拾ってどの辺の正確性が得られるかというもので、誤差等を加味しながらやるのが統計学となります。一番良いのは悉皆調査と言いまして全数調査をかけることなんですけれども、国勢調査のように。費用感等の問題でですね、こういうアンケートをどの程度の誤差まで許容するかといったものがアンケートを実施するときのカギになってくると思います。その中でですね、例えば世界中の人、70 億、80 億の人からアンケートを取るというのは物理的には不可能ですけれども、それでも数千という単位間なんですよ。もともと統計学とはそういう作り感でやっておりますので、当町 9,000 人の人口ですと、前回昨年やったプレアンケートが 300 いくつで本アンケートが 1000 くらい回収できているんですけれども、もう本当に十分な数字です。一般的に、1 万でも 10 万でも 400 くらいあれば相当の精度の回答が得られるという風に言われております。今回 137 というのは一応数字的には取れているんですけれども、やっぱり若干少ないかなというのは実は事務局でも考えております。次年度以降、アンケートによりまして町民の皆様の幸福実感をお伺いする中で、少しでもアンケートを回答いただける方は増やしていきたいと考えておりますけれども、人が変わることに寄っての違いというのは統計の中で収斂されていくものですので、誰が答えるというよりは、答えた数字の中での傾向はおそらくそれほど変わらないはずになります。企業さんなんかやるのは最低 50 からある程度だと 100、もうちょっとほしいと 400、それで 1,000 をやるというのはなかなかそこまでやるんですか、という話を聞いておりますので。ただ、仰られますように多くの方にアンケートを取りたいと思っていますので、アンケートにお答えいただくということで皆様が今自分がどのような状態なのか、自分が幸福をどういう風になっているのかと振り返りにもなると思うのですよ。それを認識していただく、幸福を意識していただくということは、また町民の幸福感に繋がるという風に考えておりますので、なるべく多くの方からアンケートをご回答いただけるような取り組みは次年度以降進めていきたいと考えております。今まで総合計画の策定の基礎調査といった形で 3 回やってしまいましたので、ちょっとアンケート疲れがあっただけで少し件数が減ったのかなというのはありますので、その辺は次年度以降は直接町の施策に繋がっていくということをよくお伝えしながら、多くの方からアンケートをお答えいただけるような取り組みを進めてまいりたいと思います。
委員	はい、ありがとうございます。
会長	よろしいですか。はい、どうぞ。
委員	私もいま言われた疑問というか、どうなのかなという感想は持たれると思います。ただ私はちょっと前にやったときにこんなことがありました。例えばこれはあくまでも WEB なので全員に配ったとして半分しか回答が無かったとして、その中の半分が 5 段階評価したとすると加重平均と言ってそれを全部に近づけるために計算して全員がそういう風に答えたという風にする。そうす

	ると半分がしないということはそこに否定的な意見の人をどれだけ集約するか、非常に私もその時に思っていて、出すのも嫌だと感じたんですけど。
委員	関わりたくないと思っちゃいますよね。
委員	そうそう。それよりはこちらの調査の方が、統計学的にもそうなのですけど、あくまでも自分から出すということです、こちらから発信したわけではないので、すごく正当性というか、今ご説明の中で私自身は聞いていて、統計学ってこの数パーセントの部分を得られれば OK なんだと認識したので、はじめ皆さんも私もすごく違和感があるんだと感じました。
会長	よろしいですか。大丈夫ですか。個人的にはアンケートというのは偏っていないというのが前提になっちゃっているわけですね。これが大前提になっているんですけど、たまたま、普通は偏らないですけども、たまたま全員移住者になっちゃったとなったら仕方がないかなという感じがしますけれどもね。データは変わってきますから、それは反省して、つぎの翌年とやっていかないといけないかなという気がします。前提は偏りがない前提ですけども。たまたまあるかもしれませんよね。1 回くらいは。全員移住者ばかりみたいな。その結果データが差があったら、それはまた反省していただいて、次どうするかを考えるかなという感じがしますけれどもね。全数調査でやるよりはどこかしらやっぱり不備はでるかなという感じがします。
委員	先ほど説明の中で昨年取ったアンケートと今回のバランスというのですかね、傾向がほぼほぼ同じだったということを見ると、まるっきり違う人でやっているか同じ人がやっているかはもちろんわかりませんが、ある程度傾向としては昨年のアンケートと今年のアンケートが人数が減ったとしても同じような傾向が出ているので、そういう意味では信頼性という言葉は変かもしれませんが、傾向としてはそういった傾向が掴めているのではないかなというところなので、いま山崎さんからご質問あったような懸念が無いわけではもちろん無いですけども、全体としてはアンケートによって概ね中井町の傾向というのが見えてきているのかなと町の方としては今のところ考えていますので。特段、すごい結果が出た場合には、私はいま会長が仰られましたように場合によってはそういうことも必要になるかもしれませんが、現状としてはそういう認識でおりますので、ご理解いただければありがたいかなと思います。
会長	他にどうでしょう。どうぞ。
委員	私も同じような感じで受け止めさせていただきましたけれども、正確性はこの数字で、137 名で正確性があるというのであれば、私はわかりました。それで、ちょっとお尋ねしたいのですけれど、中井町の行政改革大綱なのですけど、74 ページなのですけど、財政力指数ですとか実質公債費比率とかありますけれど、なぜ 2023 年ですべてが終わっているのか、2024 年、2025 年はやっぱり出ていると思うんですね。それをなぜここで終わらせているのか、その点をお尋ねいたします。
事務局	いま公表されている数字が 2023 年度までで、ちょうどいま 2024 年度の決算時期で 2024 年度をまとめているところですね。ですので、まだ 2024 年というのは公表がされていない数字になるので、内閣府のところから持ってきているので、そこで出ている直近のものでのデータとして

	活用しているといった形になります。まだ公表されていない、確定している数字ではないので、まだ載せられないという状況です。
事務局	町単体の数字ならもう抑えてはありますけれども、比較表となっておりますので、全体観の他の数字が出ておりませんので、全体的に出ている内閣府のほうのデータベースで出ている直近の数字ということで記載させていただいております。
委員	分かりました。でもやっぱり町民側、町の将来、先を読むといったことはとても大事だと思うんですね。総合計画では、そういうことをやっぱり表に出させなきゃいけないし、それを皆さんで把握していくのはとても大事じゃないかなと思います。公に公表されていない部分はあるかもしれませんが、その点考慮していただければありがたいのでよろしくお願いいたします。
会長	公表されれば載せるということですよ。
事務局	間に合えば載せます。
会長	他にどうでしょうか。はい、どうぞ。
委員	前回もこの場で申し上げたと思うのですが、前期計画について本当に内容のあるものを丁寧に説明いただいたと思いますが、その中で方向性を並列に並べて実施しますよという行政側の姿勢はわかるのですが、私としてはその町民の前期はこれとこれを実施しますよとか、優先順位はこうしますよとか、具体的に表現されていた方が、町民が理解できるということだと思っていたのですが、このような形になったということは、簡単に言うとな政策ひとつひとつを底上げすることによってその目標に近づける方針ということでしょうか。その辺がもうちょっと強調されていた方が、余分なことかもしれませんが、ちょっと思いました。
事務局	ご指摘ありがとうございます。仰る通り今回の計画のつくりの方法が町民のウェルビーイング、町民のアンケートの結果を分析した結果での施策の構成となっています。ですので、すべての事業、施策が町民の幸福につながっていくといったかたちでございます。先ほどご説明させていただきました、指標というのが当然全分野に及んでいる指標です。生活の部分もそうですし、公園も、人とのつながり、医療もそうです。各分野の指標の構成されているものに対して、町民の皆様各々幸福に感じるといったもの。先ほど言ったように最終的な幸福実感を7にするためには、各分野これだけの数値が上がれば町民の皆様が、私は幸せだなと感じる実感が7になるということになるので、どの施策を削ったとしても誰に届かない、幸せになるための逆算というかたちでエビデンスにもとづいた政策形成というのが今回計画のつくりの肝になっています。当然、これまでのように主要事業といったものを六次計画までは形成していましたが、そもそも計画のつくりの考え方を、根本を変えさせていただいて、策定しています。ですので、町民の幸せは当然十人十色になりますので、どの分野に力を入れたらというよりは、当然すべての町民の皆様の全体の平均を底上げ出来るような形で今後町の施策は進めていきたいというのもありまして、今回についてはどこを重点的にというよりは、町民の皆様の幸福実感が上がるためにこの指標を、目標値を全て達成できるような形で町としては施策を推進していきたいと考えて構成させて

	いただいておりますので、そういった形でご理解をいただければと思います。
会長	毎年度町長さんが施政方針を出しますので、そこで出していけばいいかなという感じがしますが、それでも。計画はこの状態として、このなかから今年度はこれをやっていく、これをやっていく、ということを出していけば、そこをしっかりと町民に周知していけばいいかなと思います。
委員	こちらに書いてある指標が大項目、中項目、小分類でやっていくというこの辺の指標の構成というのは、町民に何か評価をホームページとかで公表していく、という流れはあるのでしょうか。
事務局	こちら目標設定をさせていただいておりますので、当然毎年アンケートを取らせていただいた結果につきましては公表させていただきたいと考えてございます。
委員	アンケート自体は公表されているのは今僕も見ているんですけど、この目標設定もですか。
事務局	町としては計画もホームページ等に掲載はさせていただきますので、町としてこの分野についてこういう目標設定をしているというのを踏まえて町民の皆様にお知らせしたいと考えております。毎年丁寧に町民の皆様にご理解いただけるような形でご提示させていただければと思います。
委員	そうですね。さっきちょっと優先順位という言葉が出ていらっしやったのですが、これが優先順位という形にもなっていると思うので、ここがやっぱり出ていないと町民の方たちはやっぱり幸福度アンケートってかなりぼんやりした、大枠だったので、答えたときにこれが自分の何に寄与するのだろう、自分はここで何を発信できるのだろうと、自分事になりにくいアンケートだったなという気もしていたんですね。それがこういう風な方向性がある程度確定することで、そのなかで自分事にあてはめて意見をどこかで集める機会があるかどうかもありますが、自分事として考えるきっかけにもなるのではないかなと少し感じているので。それがないと町が何かやっているな、何となく答えたら、何となく結果が出ているな、というだけのぼんやりとしたものになりそうな気がしていたので、そこはホームページに反映させたりとかしながら、どういう風に意見を取るかというのが重要なのかなと。それによって町の人が自分事として考えて、より政策の具体性が出てきたりとか、優先順位が高くなっていったりとかするもその中で決定するのかなという気もしたので、意見になります。
会長	他どうでしょうか。どうぞ。
委員	教えていただきたいのですが、基本的な考え方になってしまうかもしれないですが、資料全部を把握できていない状況で質問するのはどうかなと思いますけれど、分からないので教えていただきたいということですね。この目標値の定め方、数値の定め方は何を以ってどういう風に定められているのかお尋ねします。
事務局	はい、先ほどご説明させていただきましたが、資料1の13ページをご覧いただきたいのですが、資料1、薄い方です。こちらの青い方です。そちらの13ページですね。実際、この14ページ以降のものは本計画の方の各項目の方に目標値として設定しております。先ほどご説明し

	た通り、まず 13 ページご覧いただきますと、右側の表です。一番上の幸福実感 7 を目指しますよということで先ほどお話しさせていただきました。この 7 するために、今回実施しましたアンケート結果を分析して、最終的なゴール、皆様の幸福実感を 7 に上げるためには、この方向性にぶらさがっている各項目がいくつの数字になれば、7 になるのかをコンピュータを使って分析しています。その分析結果で各指標については目標値をここまで達成すれば町民の皆様の幸福度が 7 になるということでの逆算の計算で入れてあります。ですので、各目標値の設定というのは機械で分析した結果、幸福を 7 に上げるために、町民の皆様の幸福実感を 7 に上げるために設定している数値ということです。
委員	データのなものの数字でということなのですけど、一町民としては、総合計画で皆さん町民の幸せを考えてやる総合計画ですよ、ということで出されると思うんですね。でも、説明いただいても中井町に住んで幸せ、というのが伝わってこなくて分からないです。それプラス、データのなもので数値を出していますということで、全部やれば 7 を達成するということで数字を出されたということなんですよ。なんとなく総合計画には期待するものがあるのですけれど、これで中井町総合計画やって、私たち幸せになるんだわ、っていう感覚がなんか伝わらない。ごめんなさい。
委員	7 の根拠が分からないんですけど。腑に落ちないというか。7 を割るんじゃなくて、7 に行くために頑張るんじゃなくて、小さい一つ一つを積み重ねて、生涯学習施設を作ることによって、これによって中井町に人が集まる場所がないという項目が何ポイントあがりそうだよ、道路を整備して通しやすい町を作ることによってここが上がるかなとか、そういう一つ一つを足していいたら、結果 8 いけるねみたいな、逆なんじゃないかと私思っちゃったんですけど。
事務局	実際、これまでの六次の計画では全く違う目標値を立てていたんですね。極端な話、全部は思い出せないですけど、人権とかの意識を向上させるために、講演会を開催します、何回開催します、講座を開きます、じゃあ講座が今まで 20 人くらいだったのを来年再来年は 30 人に増やします、というような数値的な目標値を掲げていたんですね。町としてそういった数値、では道路の延長が今まで 10 キロだったものを 11 キロにしますというような目標の設定をしていたのですけれど、逆に言うと当然町民の方の人数が増えました、中央公園の人数が増えました、という数値の目標を出るんですけども、それが町民の皆様のためにどれだけプラスになっているのかというのがなかなか測りかねるところだと考えています。ですので、今回については直接設問自体がウェルビーイング指標というものの自体がふわっとしたものと言われればそれでおしまいですけれども、私自身もあなたの幸福が 11 段階で何ですかと言われると感覚でしかないですよ。ただ皆さん同じような感覚で今回されていると。当然、全国の皆さんも同じような感覚で回答している。なので、一定数この数値というのは全国的にもアンケートされているもの、何年も続いているというものの、ということで一定の証明がされている数字にはなります。ですので、今回については町としては直接町民の皆様に幸福をお聞きして、ただ個別に分析してしまうと、町は子育て施策を充実してやっていたと、それは高齢者世帯の幸福にはつながっていないかもしれないじゃないですか。私みたいに子供がいるうちだと子育て施策をやってくれば私の幸せはあがりませんが、私の幸せが上がるのがすべての人の幸せにつながるということではないと思ったりします。そういうことを踏まえると、この施策を上げたらこれだけ上がるという考え方よりは、幸福の全体を底上げするために、どの分野がどのくらい上がらなくてはいけないのか、といった

	ものを数値化させてもらったんです。全方向性的に。なので、実際にこの数値目標を設定させていただいて、一年事業をやってみました、来年アンケートをやりました、それでどのくらいの数値が出るかで町が行ってきた事業が町民の皆様に分野的にどこが響いていてどこが響いていなかったのかというのが来年度以降ははっきりしてくることだと思います。そこを見ながら、町としては施策の形成をしていきたい。俗に言う EBPM、結果に基づいて政策を形成していきたい。それはなかなかそのやり方は測れなかったのですが、今回についてはウェルビーイング指標というものを使って、毎年アンケートをやっている、町民の皆様のお気持ちを聞きますので、町がやったものについてどう反映していったのかというのはある程度その数値で見えてくるということを想定して今回の計画づくりをしています。当然、いま町の思惑通りに進むか進まないかというのはアンケートをやった結果で進めていきます。毎年総合計画審議会を開催させていただいて、当然そのアンケートの結果を踏まえてご意見をいただく場は設けますけれども、そこを踏まえながら、結果を見ながら、町として反省すべきところがあれば反省してやり方を変えていくということはあると思いますけれども、今の計画の作り方、考え方としては、個別個別の事業、当然、町から言ったら全部なのなのですが、これに力を入れますというよりは、町民の幸福の全体を底上げするためには各分野でこういった数値目標を、町民の各分野にわたる満足度を上げていかなきゃいけないということを数値化しましたので、それをなるべく目標値に上げるような形で事業の展開を図っていったら、あとはやりながら、仮に来年全然上がらないところがあったらそこが弱いのだなということはわかるでしょうし、そういったものを見極めながら事業を進めていくといった形で今考えて、今回の第七次の計画については基本的な考えのベースにして策定を進めさせていただいているところです。そういったところでご理解いただきたいところだと思います。
事務局	数字で例えば何件から何件に上げると出すと一番わかりやすいと思います。先ほど申しましたように、人権の講演会の参加者を 100 人から 200 人、ただそれがやることによってみんなの幸福度が上がるかということはまた違うところ。今まで分かりやすい数字を持ってきて、道路の改修を何キロやろう、目標通りに行きました、ということでやったのですが、それが町民にとって本当に幸せに結びついていたのかというのが、何もエビデンスがないところでやっていたところを、それを町民の方に直接、俯瞰的なお伺いの仕方になるのですが、中井町の例えば道路とか公園とかは使いやすいかといったお聞きの仕方になるのですが、そういう形でお伺いしながら、満足度が上がったとか下がったとか、そういうところの満足度を上げていながらご本人の幸せ感を上げていきたいという思いでの作りということでご理解いただきたいと思うのですが。
会長	個人的な見解なのですが、今までの行政って客観のまちづくりなのですよ。客観視するという。道路を引くとか、何かやるとか。中井町は客観ではなくて主観でまちづくりしようと思っていて。道路を引いた、伸びました、これは客観ですよ、でも道路を引いたことによって人がいっぱい来てしまって幸福感が変わるかもしれないですよ。上がるかもしれないし下がるかもしれない。道路を引けば OK だった、今までは。そうではなくて、道路を引かないのだけれども、主観は上がるかもしれない。そういった壮大な実験をしているのかなと私は理解していて。どこも基本的には客観で評価をしていますので見えるものを持ってきてしまうのですが、今回はウェルビーイングという見えないものでやっていますから、主観のまちづくりをすることによって中井町は初めてかなと、そんな理解をしていますね。だから壮大な実験をされていて、

	これが上手くいくかは分からないというのが正直なところですね。ただ事務局的には NEC さんも上手くいくと確信を持っていますので、こういう風になってきたと、そういう感じかなと思っていますし、時代的にはこれからは縮小時代に入っていきますので、客観は厳しいですから、主観だと思うのですよね。極端な話、バスの変数は減ってしまった、でも自分は満足している、この町が好きだという、そういう町を作っていくのがこれからの町づくりかななんて個人的には思っています。
委員	やっぱり聞けば聞くほどアンケートが大事だなと思うのですが、せっかく自治会があるので、中井町は。紙で、年一回であればきっと自治会長さんに回覧板と一緒に配ってほしいという形で、回収してほしいと言えば、きっとちゃんと答えて、主体的に関わってくれる人が増えてくると思うので、もう少し関わる人をいかに増やすかということがこの幸福度を上げること、この町としては主体的な町民が増えないことにはデータも取れないし、次に何やればいいのかもわからないということだと思うので、以下に意見を聞くかということを考えなきゃいけないのかなとすごい思いました。
委員	アンケートで答えてくれる人を増やすということで、前の時にも何かの時に行ったと思うのですが、いまの中学生世代とかの子たちが、まだ中井町にしっかりいるじゃないですか。高校生とかになるとやっぱり興味も広がっていくし、生活のエリアも変わってってしまうので、中井町のことにまだ目が向いていたり、手が届いているこの年代の子たちにきちんと自分たちの声が町のこういったものに繋がっていくとか、声が届くという実感を持たせてあげることで、10 年の施策なので、10 年たったら 15 歳の子が 25 歳になるわけですよね。なんならここで次を立てるのかかわっているかもしれないと考えると、何かもうちょっと学校とかと上手く、1 時間時間としてタブレットで答えさせるくらいしたっていいと思うんですね。校内にモニターとかだっについているので、各クラスに子供たちがいて、タブレットを手元に持っていてこういう事務局の方とかが行って、今度こういうものがあるから皆さんの声を聞きたいです、と。子供たちだったら 10 分とかあれば余裕で終わっちゃうくらいの内容だと思うので、そのくらい帰りの会の時間にちょっと行ってやったりするのは全然いいんじゃないかなと。教育委員会でワークショップやったり、何時間と取ってやったりしていることもあったので。せっかく生徒会の選挙とか町の投票箱を借りて中学校でやっていると聞いたんです。本物を使ってこれからの社会の練習になるからと言ってやっているのです、せっかくこの小さい町で、できるじゃないですか。中学校 1 校ですから、ひょいと行ってできちゃうことなので、そういう形でも興味を持つ子を増やす取り組みを一個できたら素敵なんじゃないかなと思います。
事務局	ありがとうございます。前回の審議会でも、他市さんの取組で総合計画の講座みたいなものを学校でという話がありましたけれども。今回も概要版の方につきましては、生徒さんでも分かりやすいような内容ということを意識しながらお作りさせていただいております。他の委員さんからもそういう話出ておりましたので、教育委員会、学校なんかとちょっと調整させていただいて、時間の都合がつく範囲でそういう風な取り組みも次年度以降進めさせていただければと考えているところでございます。ありがとうございます。
会長	はい、他にどうでしょうか。まだご発言していない委員の方、どうでしょうか。ではお願いします。

委員	先ほどの説明の中で、目標値を 7 にしますというなかで、個別の数値を機械がはじき出したというお話だったのですけれども、機械が数値以外の、コメント的なことも本来はじき出す、こういうことが足りていないからこういう数値にする、といったところまで出せるんじゃないかなと思うのですけれども、その辺は無いのでしょうか。個別項目が 0.3 ポイント上乘せされているものもあれば、0.02 しか上がっていないものもあるとなると、機械の方がここは必要だけれどここはあまり必要ではないと考えているのだと思うのですけれども、そういったコメント的なものはないのでしょうか。
事務局	コメントという形ではないですけれども、結びつき度が強いもの、弱いもの、というのが解析の方で出ております。一番効果的といいますか、この項目を上げるのが一番全体の幸福感を上げるには効果があるといった判断をした中での解析ということになっております。細かいコメントと言いますか、そういうイメージではないのですけれども、項目ごとの分析は細かく行っているところでございます。影響度的なものは分析を行っているところでございます。
委員	もともとのデータみたいなところには、中井町の交通網がこうなっていると、そういうものも入ったうえでのアンケート結果でこういう数値が出たからこういう数値を目標としているのか、あくまでもアンケート結果の数値だけを以って数値を導き出しているのか、どういったかたちになるのでしょうか。
事務局	交通網のデータというのは例えばバスの便数が何本ある、ですとか、そういうものを取り込んでいるかというお話しかと思うのですけれども、今回はあくまでもアンケートをお答えいただく方々に町の暮らしですとか、町の政策について、あくまでも主観的なところでお伺いしていると。主観的なところでお伺いしたものを分析かけているといった形になります。基礎データでそういったものを流し込んでやっているという形ではないです。
委員	アンケートで出た数値、それに対してアンケートの関連性だけで、最終的なこの数値が出たと。分かりました。
会長	はい、他にどうでしょうか。ではお願いします。
委員	発信の仕方、こうしたら分かりやすく変わるのではないかなというので、この中井町に住む小学生がこの 10 年こういう風な町で生きていける、みたいなものを、ストーリーみたいなものを見せてもらえると分かりやすいのかなと思って。細かく計画の中の、これを実施します、と読んでいくと、こうなるんだ、こうなるんだ、と分かっていくんですけど、なかなかこれを全部読んだ上でというのは町民の皆さんにはなかなか伝わる機会が無いかもしれないので。PR の仕方として、そういったもので周知する、そういうストーリーを作ってこういう人の人生、という風に訴求していくというのはいいんじゃないかなと思いました。以上です。
会長	検討していただいて、たしかにあってもいいかなと思いますので。ここで生まれてこんな風になってこうなるといったことを訴求して、ということですね。そんなにめっちゃめっちゃ難しい話ではないと思いますので。ちょっと検討してもらえればなと思います。他にどうでしょうか。では

	お願いします。
委員	初めの 8 ページの「協創」って公共の共を使うのが多いのではないかなと思ってまして。こっちのほうが全国的に使われているのかなと思いますので。
会長	ちなみにですけど、デジ庁さんなんかはこっちの「協創」を使っているですよ。ところが一般的には「共」の方ですよ、生駒市なんかも意図的にこっちを使っています。
委員	そこはちゃんと定義があればと思います。我々の都市計画なんかでは共に創るが多いので。あとは、17 ページのところ、細かいですけど、KGI、KPI というのが一応説明では 27 ページにあると思うのですが、先に来ているので、その辺りの説明と、PDCA も説明してもらった方がいいのかなと思います。それと、最後 77 ページですね、行政評価フローというのは毎年といわれていてこれを見ればわかりますけれども、毎年評価するというのをフローのところにも書いておいた方が良くないかなと思います。毎年チェックしますよというのをいれたり、あったほうが分かりやすいかなと思います。
会長	はい、ありがとうございます。いずれも修正できますので。「協創」だけ確認していただいて、あとは適宜修正してもらえればと思います。では私から見て右側の方は発言が終わりましたので、こちらの方順次コメントいただければと思います。ではよろしくお願いいたします。感想でも質問でも。
委員	総合計画というものは大枠のなかのものだと思うのですが、これだと何を町民がやったら幸福度が上がるのかというのがちょっと見えづらいですね。ですから総合計画ではなく実施計画とかってあると思いますので、もう少し細分化した中で、より議論したら良い町づくりになるのかなと感じていました。以上です。
会長	そうですね。たしかに、総合計画は行政がやってあげて幸福にしましょうねという感じになっているので、町民が何をしたらいいかというのも良いかもしれないですね。場合によってはどこかで議論してもいいかなと。町民が動くことによって幸福になるということですね。これは行政が用意してあげて幸福になっているというのが強いのです。
事務局	会長からご説明があったように、今までの総合計画ですと町がそういうものに取り組みますといった書きっぷりをさせていただいていたのですが、今回、例えば本紙 32 ページをご覧になっていただきたいと思うのですが、幸福なまちづくりを進めるために、「町民は、日常生活での省エネルギーや里山の自然環境を守ることの重要性を理解してもらうことが望まれます。事業者は、自社の省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入、従業員への環境教育などを実施することが望まれます。」ということがですね、行政だけの取組ではなくですね、町民の方、事業者の方にこういう風な取組を一緒にしていただいて、町をより良くして幸福感を上げていくといったことをお願いしているという計画書の作りになってございます。先ほどありました、共に創る協働・協創の考え方を取り入れて、基本計画中にこういう作りにさせていただいているところでございます。

委員	わかりました。ありがとうございます。
会長	では次の方どうぞ。
委員	すみません。商工会というか商売人から見るとなんかぼんやりした目標ですごいなと思うんですけども。商売人というのはしっかり目標を立ててそこに進んでいこうというのが一般的な考え方で。これはこれで一回試してやってみたほうが良いのかなという思いでおります。以上です。
会長	はい。ありがとうございます。では隣の方よろしくお願いします。
委員	幸福度を目指すということで、政策から行ってしまうと昔のとにかく道路を作れとかですね、そういうことよりも幸福だということで、よろしいんじゃないかと思います。それで、この資料1の目標値の設定で方向性の分野ごとにざっと見ているとですね、一番目標値が少ないほうを重点的に上げていく事業をしていくという考え方でよろしいのでしょうかね。そうすると、一番少ないのは方向性2の15ページですね、生活環境の基盤となる公共交通の充実が2.30で一番少ないです。これはやっぱり、いま電車が通っていない、不便だということが圧倒的にありますので、これがやっぱり低いというのは、これだけはいいなと思いました。以上です。
会長	じゃあお願いします。
委員	計画自体は総合計画なので、こういう表記の仕方、考え方でよろしいかなと思います。その中で町民が見たときに分かりやすい現状値ですとか目標値の考え方を分かりやすく説明していただくことがまずよろしいのかなと感じております。この目標値を達成するにあたって、さきほど石鍋委員もちょっと言われていましたけれど、パッと見ると低いところ、例えば防犯対策であるとか、インフラの整備、それから公共交通の関係ですね。その意識が幸福度を下げている要因の一つかなという風には感じております。その中で見せ方として、こういうところに重点施策を、機械的に目標値を出しているという話なのですが、ちょっと上げてここ取り組んでみようという見せ方も必要かなと思います。総合計画を推進するにあたってやはりこの幸福度を達成するには個別計画の紐づけがあるとか、それぞれ町民ニーズが違うので、考え方が違うので幸福感が違うと思うのですが、やはりそこを上げていくというのは総合計画、全体的な計画だけではなかなか推進できないということで、個別計画であるとか、我々社協もそうなんですけども、いかに一人一人のニーズを拾って一人一人の幸福感を我々社協が上げていく、協力していくということ、行政にできないところ、民間にできないところを一人一人細かいところを上げていくという取り組みを併せてしていければ、全体的に幸福度が上がっていくのだろうなという感じがしています。また5年後の評価の中で目標を達成できなかったところを分析して、ではどういう施策を具体的に取り組んでいくか、そういう取り組みが今後求められていくのかなという感じがします。以上です。
会長	はい、ありがとうございます。他にご意見等ありますか。どうぞ。
委員	委員が仰られたことがすごく理解ができるなと思ってコメントだけなんですけれども。本当は幸福指数はあくまで指標みたいな形になっていて、今までの総合計画の通りこういった形で、総合

	計画の中の 31 ページにあるような前期の基本計画というのが一つ一つあり、それが細かくなって、もちろん淡々と行政が行うものが一覧化されているという形ではあると思うので、やはりその中に先ほどストーリーという話もされていましたけれど、ここに関わるのか違うものかもしれませんが、戦略的にこういう町があるべき姿に進んでいくよというのが見えていく中にこれが埋まっていて、その中に町の人自身がどこに寄与できるのかなというポイントが少しずつ書いてあると、私の幸せのためにここに寄与できるという風に、町の人が自分事化していくようなかたちとか、それが指標として町で幸せを測りながらもどこに注力していったいいのか、双方向で歩み寄っていくことで、一人一人で見たり、大きい枠で見たりとか行ったり来たりするなかでより指標が上がっていく、より具体的に落とし込む項目を把握していくということがあると思うので、大きいものをつくるのがやはり総合計画だと理解しながらも、じゃあこの町の中でどういう取り組み、今回ウェルビーイングというのが取組の一つだと思うのですけれども、そこにどういった価値をつけていくかというのはもう少しに詰めていくと行ったり来たりができるんじゃないかと思っております。すごい大切なことだなと感じたので、コメントでした。
委員	たまたま私は今自治会長をやっているんですけれども、その中でもよく話に挙がるのですが、将来的なことを考えると、人口減少が進む中で、地域、自治会を抜ける方が相当多いと。中井町で。相当自治会が不安視されているのが現状だと思います。中井町であっても。その中でいかに地域と連携して自治会を抜けない、あるいは自治会のためになるような施策というのをどんどんどんどん推進することで、地域で幸福感が、地域で得られるような施策というのも非常に今後重要だなと感じますので、その辺も個別計画になるのか、色々な団体もありますからそういうところと協力しながら取り組んでいくというのがよろしいのかなと感じます。
会長	他にどうでしょうか。ウェルビーイングというものを理解してもらうことが第一歩かなと思いますけれどもね。これだけやったらアバウトになってしまいますので。また庁内でもしっかり理解してもらって、個別計画に落とし込んでいかないとなかなか絵にかいた餅になっちゃうかなと。それは事務局の方で頑張ってください。庁内に落とし込んでいただきたいなと思います。
委員	先ほどちょっと委員長の方からコピーをお渡しさせていただきました。雑誌というのはこういう雑誌です。月に一回出ている。ご承知の方もいらっしゃると思いますけれど、ここで先ほど言った客観的な考え方から主観的な考え方という形でやったというのを対話の中から今回の総合計画の作りみたいなものも記載させていただいておりますので、ちょっとこの辺はご質問いただいたものをまとめた感じになっているのかなと思っております。色々ご意見をいただきましたので、町としてもこれまでにない取組をしています、はっきり言って。ですから、町民の幸福度に繋がるように、色々ご意見いただいた内容を含めて取り組んでいきたいとこちらも思っておりますので、それについては貴重なご意見本当にどうもありがとうございます。
会長	ではこちら承認事項ですので、こちらの状態でパブコメ入っていきたいと思いますけれどもよろしいですか。 (全員異論なし) はい、ありがとうございます。細かい修正は私と事務局の方で調整をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。では、今日の協議事項は以上になりますので、こちらで終了いたしました。冒頭にも説明しましたが、改めて事務局の方から 3 のスケジュールについても

	もう一度お願いできればと思います。
事務局	3. その他 はい、では本日はありがとうございました。次回の審議会につきましては先ほど資料1の裏面でお話しさせていただきましたが、11月の上旬から中旬にかけて審議会の方を開催させていただきたいと思います。こちらにつきましては、もう来月ということになりますので、日程決まり次第、皆様の方にはまたご通知をさせていただきたいと思いますので、ぜひ次回もご出席をお願いいたします。その他は以上になります。
会長	大丈夫ですかね。皆様何かございますか。よろしいですか。では全て議題は終了しましたので、事務局に一度お戻しいたします。
事務局	長時間にわたりご審議ありがとうございました。また大変貴重な意見をありがとうございました。次回の会議につきましては今申しましたように11月上旬から中旬に予定させていただいております。パブリックコメントの結果のご報告ですとか、計画の答申などをいただければと考えております。改めて日程のご依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の意見を踏まえまして、策定して作った後の回し方が非常に重要だということは委員の皆様のご意見からも伺えているところで、事務局の方で感じているところでございます。上手く回しながら市民の幸福が上がっていくような取組を進めてまいりたいと思いますので、引き続き、ご協力の方をお願いしたいと思います。では、以上を持ちまして本日の総合計画審議会の方を終了いたします。どうも本日はありがとうございました。